

○有田正博・陳 克恭・芳賀健輔・小城辰郎・松木貴彦・中村恵子・波多野圭紀・矢野淳也・諸富孝彦・笠井宏記・永吉雅人
九歯大 卒前臨床実習作業部会

目的：共用試験が本格実施され、歯科医師臨床研修制度が義務化される中、卒前臨床教育は益々重要な位置を占めることとなる。卒前臨床実習は参加型臨床実習を基本とし、一口腔単位での臨床実習を医療事故防止に十分考慮した指導体制のもとで実施しなければならない。このようなことから、平成 16 年度より保存・補綴統合型臨床実習を企画し、参加型臨床実習を実施してきた。平成 18 年度からはポートフォリオによる形成的評価を導入した。統合型臨床実習およびポートフォリオ評価の学習効果について報告する。

方法：平成 17, 18 年度本学 6 年次生 (54 期生 : 89 名, 55 期生 : 93 名) を対象に実施した。補綴・保存教員各 1 名がペアとなり、10 名程度の学生に対して、臨床指導を合同で行った。平成 18 年度からはポートフォリオによる学生評価を実施した。学生へのアンケート調査および KJ 法による問題抽出を行った。

結果と考察：統合型臨床実習の意義や方法、およびその学習効果に対しては、多くの学生が高い評価を示した。各教員の指導に対する学生評価は高かったが、グループ間の指導内容の格差を指摘する学生もあった。ポートフォリオ評価は、その作成方法や評価の標準化に問題点が認められ、学生・教員双方の習熟が必要であるものの、振り返りに基づく自主学習習慣の獲得や形成的評価を行う上では有効な方法であることがわかった。参加型卒前臨床実習を行うためには、臨床実習前の基本的な臨床スキルの向上が必要である。

九州歯科大学附属病院協力型臨床研修施設への 院内感染対策に関するアンケート調査

○農蘇千絵¹・木尾哲朗¹・前田直美²・杉山裕香²・藤本陽子²・井ノ森巳賀子²・佐伯 桂²・西野宇信¹・永松 浩¹・曾我部浩一¹・寺下正道¹

¹九歯大・総診、²九歯大・病院

【目的】 歯科治療に伴う院内感染予防対策では「歯科医療の院内感染対策ガイドライン」にそって行う必要がある。このガイドラインはスタンダードプリコーション (標準予防策) を遵守することとされている。各歯科医院でどのような院内感染対策が実際に行われているか調べるため、九州歯科大学附属病院協力型臨床研修施設に対して感染対策に関する調査を行った。

【方法】 対象は、平成 19 年度九州歯科大学附属病院協力型臨床研修施設 90 施設である。アンケートは郵送にて、感染対策に関して 25 項目について行った。得られた結果と九州歯科大学附属病院で行われている感染予防対策を比較検討した。

【結果および考察】 90 施設中 69 施設 (76.7%) から回答を得た。グローブやマスクの着用率は高かったが、防護メガネやキャップ (帽子) の着用率は低かった。各施設における口腔外バキュームの設置率も低かった。悩んでいる事や困っている事として、院内感染対策のための費用が保険点数に反映されていない点やゴミが増える点があげられた。